奥之院

苔むした大きな岩に注連縄が巻かれているのは、1297年に七面山に登った日朗聖人たちが、奥之院の前身である七面山の龍神（七面大明神）を祀ったとされる場所です。

起源

伝説によると、日蓮とその弟子たちは、1277年に初めて七面山の龍神に出会いました。日蓮はこの出会いをきっかけに、いつか七面山に登って龍神をお祀りしたいと願ったといわれています。しかし、残念ながらその願いは叶わずに5年後の1282年に亡くなりました。1297年、日蓮の後継者である日朗聖人が弟子たちと一緒に七面山に登り、現在の奥之院のある場所にたどり着きました。七面山の龍神が大きな岩に降り立って飛び去っていったと伝えられています。龍神が現れた場所を示すために祠を建て、その岩に注連縄を巻いて大切にしていました。古さと龍神の存在感を体現したこの岩は、奥之院の参拝客を魅了しています。

奥之院までの道のりと宿泊施設

敬慎院から奥之院への道は、七面山神話の七大池の第二の池である二の池を通ります。また、この山には多くの鹿が生息しています。霊峰では鹿狩りが禁止されているため、他の自然環境に比べて鹿が人の近くに寄ってくる傾向があります。奥之院は敬慎院から徒歩で20分ほどの場所にあります。

奥之院は小さなお寺ですが、多くの貴重な仏像を所蔵しています。宿泊は事前予約制となっています。ただし、奥之院は敬慎院に比べて小さいので、大人数での利用は難しいかもしれません。